

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈小・体育〉

特別研修員 体育 森田 真太郎（小学校教諭）

単元名 『 器械運動 「跳び箱運動」 』（第4学年） 全9時間計画

## 単元のねらい

跳び箱運動に進んで取り組み、仲間と教え合いながら運動することにより、楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な技を身に付けられるようにする。

## ICT機器などを効果的に活用した単元構想

本単元において、つかむ過程では、学習の進め方を知り、単元全体の見通しをもたせます。安全面を配慮した上で跳び箱への興味・関心を高め、できていることを確認し、楽しさを味わいます。追究する過程では、正しい体の使い方を知り、必要に応じてタブレットを使うなどして、客観的に自分の運動を見たり、友達と教え合ったりしながら、自己の課題を解決し、できるようになる喜びを実感させます。まとめる過程では、発表会を設けることで、単元全体を通して技能の高まりを実感させられるように構成しました。

過程	主な学習活動	困難さに応じた指導の工夫
つかむ(2)	<p>1. 単元の見通しをもち、課題を把握する。</p> <p>○身に付けてきた運動について振り返り、準備運動の仕方を知る。</p>  <p>○低学年での跳び箱を使った運動遊びを行う。</p> <p><b>単元の課題</b> 安定した開脚跳び、台上前転ができるようになる。</p>	<p><b>困難さに応じた指導の工夫</b></p> <p>跳び箱に慣れるために、サーキットや跳び箱を使った運動遊びを取り入れることで、安心して楽しめるようにする。</p> <p><b>正しい体の使い方を知る</b></p> <p>技能を身に付けるために、モデルとなる絵を使い、正しい体の使い方を理解した上で取り組めるようにする。また、できるようになるためのポイントを児童の言葉で表現する。</p> <p><b>自己の課題を見付ける</b></p> <p>試技をタブレットで撮影し、映像を見ながら学習カードに付箋を貼る活動を取り入れることで、課題をはっきりさせる。</p>
	追究する(5)	<p>2. 正しい体の使い方を知り、その動きを身に付けることができるようにする。</p> <p>○サーキットや跳び箱を使った運動遊びを行う。</p> <p>《開脚跳び》</p> <p>○友達と見合いながら自分の課題を見付ける。</p> <p>○友達と協力して、課題解決をする。</p> <p>○課題に合わせて、練習の場を移動したり、課題を見直したりしながら練習する。</p>  <p>《台上前転》</p> <p>○開脚跳びと同じ学習の流れで、課題を見付け、解決をする。</p> <p>《切り返し系・回転系の発展技》</p> <p>○開脚跳び、台上前転ができるようになった児童は、かかえ込み跳び、首はね・頭はね跳び等の発展技に挑戦する。</p> <p>○安全面に気を付け、段階的に練習を行う。</p>
まとめる(2)		<p>3. 発表会を通して、技能の高まりを実感し、単元の全体を振り返る。</p> <p>○自己の能力に合った技の正しい体の使い方を確認し、安定した動きを身に付ける。</p> <p>○できるようになった技の確認をし、よりきれいな演技をするためのポイントを再確認しながら練習する。</p> <p>○単元を通して、できるようになった技を発表会で演技する。</p> 

指導例：『器械運動「跳び箱運動」』（第4学年 第2時）

1 本時のめあてをつかむ。

○3年生までに学習してきた跳び箱運動を振り返らせ、取り組んできたことや習得したことを確認する。

T：今までの跳び箱運動で、どんなことに取り組んできましたか？

S：普通に跳んだ（開脚跳び）。跳び箱の上で回った（台上前転）。  
足を閉じて跳んだ（かかえ込み跳び）。

○本単元における学習の目標を伝え、見通しをもつ。

T：4年生では、開脚跳びと台上前転が安定して跳べるようになります。

S：できるよ。けど、安定って何がちがうのかな。

めあて 正しい体の使い方を知り、友達と運動を見合いながら、技ができるようになるためのポイントを見付けよう。

2 準備運動、補助運動を行う。（活動1）

○準備運動（サーキット）

「①マットで前転、②ステージへ跳び乗り、③手首の柔軟・足打ち、④踏み切り練習、⑤うさぎ跳び、⑥平均台で腕の支持・壁で突き放し」



<踏み切り練習>



<腕の支持・突き放し>

○跳び箱を使った運動遊び

「腕の支持でまたぎ乗りとまたぎ下り・跳び乗りと跳び下り」

S：腕に力入れたら、ステージに上がったよ。

S：前転や踏み切りで一度膝が伸びない。どうしたらいいのだろう。

3 正しい体の使い方を知り、自己の課題を見付ける。（活動2）

○モデルとなる絵を見て、正しい体の使い方を理解する。

【開脚跳び】見るポイントを四つに絞る。

「①踏み切り（トン）、②膝（ピン）、③着手（パン）、④着地（ピタ）」

○技能でグループ分けを行い、友達と見合いながら自己の課題を見付ける。

○友達の試技をタブレットで撮影し、映像を見ながら学習カードに付箋（○青△黄×赤）を貼り、課題をはっきりさせる。



<モデルとなる絵の活用>

【台上前転】見るポイントを四つに絞り、開脚跳びと同様の流れで行う。

「①踏み切り（トン）、②膝（ピン）と腰、③着手（パン）、④着地（ピタ）」

S：跳ぶことはできたけど、着地が止まらなかった。

S：一つ高くすると跳べない。跳び箱の上で回れない。  
どうしたらいいのだろう。

4 学習したことを振り返る。

○どのようなことができるようになるかと、安定して跳べるようになるか問いかけ、準備運動とのつながりを意識して取り組めるようにする。

○個人の振り返りを通して、できるようになるポイントを全体で共有する場を設ける。

S：跳び箱をしっかり手で押すと跳べるよ。

S：踏み切りで止まってしまうと跳べないね。

S：腰をもっと高く上げた方がいいとアドバイスをもらった。

指導のポイント

学びのつながりと目標の設定

○今まで行ってきた運動を振り返らせることで、常に学びのつながりを意識できるようにし、学習の見通しをもてるようにする。

困難さに応じた指導の工夫

○やさしいことに取り組めるようにすることで、できる喜びと基礎的な力を身に付けられるようにする。また、低学年で行った運動遊びを取り入れることで、児童一人一人の技量に合った取り組みをし、学習意欲の向上につなげる。

「課題」の設定

○課題を見付けられるようにするために、正しい体の使い方を知らせる。  
○運動は自分の姿は見えないため、友達に見てもらって活動を通して、課題を見付けられるようにする。

主体的な学びに向けた対話

○自分のできる場で、友達と協力して、タブレットを使いながら自分の演技を見ることで、課題を見付けられるようにする。  
○場を変えることによって、できなくなってしまった場合は、友達に見てもらったり、タブレットで撮影したりしながらアドバイスももらい、何が課題が見付けられるようにする。

次への学習につなげる振り返り

○学習を通して、得た知識や感覚を全体で伝え合えるようにすることで、できるようになるためのポイントを児童の言葉で振り返り、共有できるようにする。

指導例：『器械運動「跳び箱運動」』（第4学年 第4時）

1 本時のめあてをつかむ。

めあて 友達と教え合い、より安定した開脚跳びができるようになる。

T：自分の課題にネームプレートを貼りましょう。

○準備運動（サーキット）、運動遊びを行う。

○前時までに取り組んできたことや習得したことを確認する。



<課題の設定>

T：前回までで、どんなことに取り組んできましたか？

S：自分の課題を見付けた。

T：自分の演技をタブレットで見てみて、どうだった？

S：自分ではできているつもりだけど、できていないことがあった。

2 個人で課題を意識して、練習を行う。（活動1）

○正しい体の使い方をモデルとなる絵を活用し、確認する。

T：踏み切りは？ S：踏み切り板上から入る。

T：膝は？ S：蹴ったら伸ばす。

T：手は？ S：両手同時に上から。跳び箱の奥に。

T：着地は？ S：膝を曲げて止まる。



<モデルとなる絵の活用>

○できるようになった場で、自己の課題を意識しながら練習する。

3 グループで教え合いながら、課題解決を行う。（活動2）

○試技の時は、運動の際に気を付けるポイント

「踏み切り・膝・手・着地」を意識して取り組む。

○技能が同じ児童でグループを組み、友達と教え合いながら、自己の課題を解決する。



<対話による課題解決>

S1：手の位置を見て。

S①：まだ真ん中ぐらいだから、もう少し奥だね。

○タブレットを使い、自分の体の使い方を確認する。

S2：ピンができていないか撮って。

S②：蹴った後、まだ少し曲がっているね。

T：タブレットで撮るときの位置に気を付けましょう。近すぎても後で確認しづらいよ。膝を撮るなら、真横や少し少なめからなど工夫しましょう。

S3：蹴ったら伸ばすんだよね。 S③：準備運動の練習してみたら？

○課題のできばえに合わせて、場の移動や課題を見直す。

S4：着地で止まります。

S④：できてよ。高さ変える？

膝が伸びていなかったから次は、膝を意識かな。



<ICT機器の活用>

S5：高さ変えたら、できなくなっちゃった。 S⑤：手の位置かな。奥だよ。

○本時を振り返り、再度、自分の課題と向き合い、個人で取り組み、できばえを確認する。

4 学習したことを振り返る。

○学習カードに載っているモデルとなる絵を使ってグループで振り返り、課題のできばえを確認する。また、全体で友達にもらったアドバイスや気を付けたポイントを伝え合うことで本時のポイントを再確認する。

○本時の振り返りを次時の課題につなげる。

S：手を突き放すことを意識したら、跳ぶことができた。

S：膝が伸びていて、きれいと言ってもらえた。

S：高さを変えたら、課題が手に変わった。

指導のポイント

「課題」と「めあて」の設定

- 課題にネームプレートを貼ることで、自分の課題を視覚化させる。
- 前時を踏まえ、自己の課題が決まっている状態で学習を開始し、児童がやってみようと感じるめあてを設定する。

主体性を引き出す

- 感覚づくり・準備運動を行うことで、一人一人の技量に合った取り組みができるようにする。
- ポイントを意識しながら取り組めるようにするために、個人の課題に合わせたアドバイスの言葉を使って助言する。

対話を生み出す学び合い場の設定

- 技能の同じ児童でグループ編成し、一人が5分間連続して運動を行うようにすることで、その友達の課題に合わせたアドバイスを繰り返しできるようにする。
- 試技をする児童のモデルとなる絵を使い、課題の達成度を確認しながら助言を行うようにさせる。
- 課題に合わせて児童が移動できるように、解決のために考えられる場を設定しておく。

情報の収集

- 各グループにタブレットを用意し、必要に応じて、演技を撮影させることで、自分の体の使い方を確認できるようにする。

学びをつなげるための振り返り

- 学習の中で意識したポイントを共有したり、モデルとなる絵を使ったりして振り返ることで、次時の課題へつなげられるようにする。



指導例：『器械運動「跳び箱運動」』（第4学年 第8時）

1 本時のめあてをつかむ。

めあて 今までで、できるようになったことを確認し、発表会への準備をしよう。

T：自分の課題にネームプレートを貼りましょう。

○準備運動（サーキット）、運動遊びを行う。

○前時までに取り組んできたことや習得したことを確認する。

T：前回までで、自分ができるようになったことは何だろう？

S：開脚跳び、台上前転、かかえ込み跳び、首はね跳び。

2 自己の能力に合わせて、繰り返し系の技の練習を行う。（活動1）

○繰り返し系の技（開脚跳び、かかえ込み跳び）の練習をする。

T：「踏み切り・膝・手・着地」をしっかり意識して  
取り組み、少しずつ跳び箱の高さを変えていこう。

S：まずは、5段から確認でやってみよう。

S：蹴ったら膝を伸ばすんだよね。

T：リズムができてきたら高さを上げていこう。

S：横の7段でかかえ込み跳びができたよ。

○モデルとなる絵を見ながら、友達への助言に使ったり、待機中に確認したりしながら練習する。

S：踏み込んだ時、体は前だよ。

S：腰の高さが、少しずつ上がってきたよ。



<開脚跳びの確認>



<演技を友達と見合う>

3 自己の能力に合わせて、回転系の技の練習を行う。（活動2）

○回転系の技（台上前転、首はね・頭はね跳び）の練習をする。

T：取り組む技に合わせて、場を選び少しずつ高さを  
上げていきましょう。

S：まずは、台上前転を3段で確認しよう。

S：大きい台上前転になっているか、膝を見て。

S：着地が安定しないな。頭の付く位置かな。

S：首はねの練習は、まずはステージからだよね。

T：練習していて難しいようなら、高さを戻して  
確認しましょう。安定してできるようになっ  
たら、次へ進んでみよう。

○モデルとなる絵を見ながら、友達への助言に使ったり、待機中に確認したりしながら練習する。

S：大きく演技するには、蹴ったら膝は伸ばすんだよね。

S：首はねは、蹴ったら膝を伸ばして、そのまま振り下ろすんだよね。



<台上前転の確認>



<首はね跳びの練習>

4 学習したことを振り返る。

○友達にももらったアドバイスや気を付けたポイントを伝え合うことで、安定して演技するためのポイントを共有する。

S：蹴ったらピン、膝を意識して大きな演技をしたい。

S：跳び箱が高くなった時、踏み切りで止まってしまうないように気を付ける。

S：発表会では、練習で跳べた8段を跳びたい。

指導のポイント

主体的な学びに向けて

○前時までを振り返り、本時のめあてを確認した上で、モデルとなる絵を使ったり、学習の進め方を示したりすることで、児童が効果的に取り組むことができるようにする。

学習意欲を高め

○今まで取り組んできた中で、できるようになったことを発表させることによって、学習意欲を高められるようにする。

主体性を引き出す

○発展技ができるようになるためのポイントは基本的な技にあることを知らせることで、学びのつながりを意識して取り組めるようにする。  
○児童一人一人の実態に合わせた練習を行えるようにすることで、「できた」という思いを実感させ、主体性を引き出せるようにする。

対話を生み出す場の設定

○同じ技に取り組む同士でお互いの演技を見合い助言し合いながら取り組ませることで、共通の目的をもって練習できるようにする。

学習の成果を認め合う  
次時への意欲

○何がどのようにしてできるようになったかを共有し、成果を振り返らせることによって、次時の発表会で目標を達成しようとする意欲につなげられるようにする。

# 体 育 科 学 習 指 導 案

令和元年 10 月 第 4 学年 指導者 森田 真太郎

## I 単 元 名 (題 材 名) 器械運動「跳び箱運動」

## II 学習指導要領上の位置付け

中学年の器械運動は、「マット運動」、「鉄棒運動」及び「跳び箱運動」で構成され、回転したり、支持したり、逆位になったり、懸垂したりすることなどの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びに触れることのできる運動である。

低学年の器械・器具を使った運動遊びの学習を踏まえ、中学年では、器械運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動などの基本的な動きや技を身に付けるようにし、高学年の器械運動の学習につなげていくことが求められる。

また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることが大切である。

## III 目 標

ア 運動の楽しさや喜びに触れ、切り返し系や回転系の基本的な技の行い方を知るとともに、その技を身に付けることができる。(知識及び技能)

イ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

ウ 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

## IV 指導計画 ※別紙参照

## V 本時の展開 (2/9)

1 ねらい 開脚跳び、台上前転の正しい体の使い方を知り、自分に合った場で運動ができるようになる。

### 2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。(10分)	○けがをしないように、準備運動を正確に、運動のポイントを意識しながら行わせる。 ○必要な技能を身に付けるために、準備運動の中にサーキットを取り入れていく。 ○本時のめあてをつかみ、学習の見通しがもてるようにする。		
めあて 正しい体の使い方を知り、友達と運動を見合いながら、自分に合った場で技ができるようになる。			
2 準備運動、補助運動を行う。(活動1) (10分)	○基本的な跳び箱を使った運動遊び「支持でまたぎ乗り・またぎ下り、支持で跳び乗り・跳び下り」をすることで、より安全に跳び箱の活動につなげられるようにする。		
3 正しい体の使い方を知り、自己の課題を見付ける。(活動2) (20分)	《活動「開脚跳び」》 ○モデルとなる絵を見て、正しい運動の仕方を理解し、自己の課題を見付けるよう促す。 ○モデルとなる絵(開脚跳び)を見ながら四つのポイント「①踏み切り(トン) ②膝(ピン) ③着手(パン) ④着地(ピタ)」に絞り、児童の言葉で合言葉を確認することで、どのように体を使っているか理解できるようにする。 ○技能でグループ分けをし、友達同士で見合いながら試技を行い、技ができるようになるためのポイントをキーワードで声を掛け合うように促す。 ○友達からもらったアドバイスや自分の課題を学習カードに書くよう促す。 《活動「台上前転」》 開脚跳びと同様の学習の流れで行わせる。 ○モデルとなる絵(台上前転)を見ながら四つのポイント「①踏み切り(トン) ②着手(パン) ③腰 ④着地(ピタ)」に絞って確認させることで、どのように体を使っているか理解できるようにする。		
正しい運動の仕方を理解し、自分に合った場で技ができる。 〈観察・学習カード(1・2)〉			
4 学習したことを振り返る。(5分)	○得た知識を全体で伝え合うことで、正しい体の使用方法を確認する。 ☆開脚跳びで6段が跳べるようになりたい。 ☆踏み込む前に止まってしまって跳べない。 ☆腰をもっと高く上げた方がいいとアドバイスをもらった。 ☆着地で止まれない。		

## V 本時の展開（4／9）

1 ねらい 友達と教え合いながら自分の能力に合った場を選び、開脚跳びがより安定してできるようにする。

### 2 展開

学習活動（分） ○：留意点 点線囲：評価 ☆：振り返りの子供の意識

#### 1 本時のめあてをつかむ。（10分）

- 課題別でネームプレートをホワイトボードに貼り、自分の課題を視覚化させる。
- 必要な技能を身に付けるための準備運動を取り入れ、自分の課題を意識しながら行わせる。
- 跳び箱を使った運動遊びを取り入れることで、より安全に跳び箱の活動につなげられるようにする。
- 本時のめあてをつかみ、学習の見通しがもてるようにする。

めあて 友達と教え合い、より安定した開脚跳びができるようになろう。

#### 2 個人で課題を意識して、練習を行う。（活動1）（7分）

- 個人でできるようになった場で取り組み、自分の課題を意識しながら取り組むよう声を掛ける。
- 自己の能力に適した場で安定してできる跳び箱の高さを選び練習するよう助言する。

#### 3 グループで教え合いながら、課題解決を行う。（活動2）（23分）

- 正しい体の使い方を理解できるように、モデルとなる絵を活用し、確認する。
- 1グループ3人（技能が同じ児童）で構成し、教え合いがスムーズに進められるようにする。
- 教え合いがより円滑に進むように、今までの授業で確認してきた運動の際に気を付けるポイントを短いキーワードで掲示しておき、「①踏み切り（トン）②膝（ピン）③着手（パン）④着地（ピタ）」を意識して取り組むように促す。
- グループ活動では、一人の児童が5分間続けて運動を行い、他の児童は、運動している友達の課題に合わせたアドバイスをするように促す。
- 課題の達成度に合わせて、場を移動するように促す。
- 必要に応じてタブレットを使い、課題に合わせて、自分の体の使い方が確認できるようにする。

課題に適した場で活動し、安定した開脚跳びができる。〈観察・学習カード(2・3)〉

#### 4 学習したことを振り返る。（5分）

- モデルとなる「絵」、学習カードを使って振り返り、次時への課題を明確にすることで、意欲的に活動できるようにさせる。

☆手を奥に着くことを意識したら、跳ぶことができた。

☆膝が伸びていて、きれいと言ってもらえた。☆踏み切りを強くしたら、5段が跳べた。

## V 本時の展開 (8/9)

- 1 ねらい 自己の能力に合った場を選び、切り返し系や回転系の技が安定してできるようにする。
- 2 展開

学習活動 (分)	○: 留意点	点線囲: 評価	☆: 振り返りの子供の意識
<b>1 本時のめあてをつかむ。(10分)</b>			
○課題別でネームプレートをホワイトボードに貼り、自分の課題を視覚化させる。			
○必要な技能を身に付けるための準備運動を取り入れ、自分の課題を意識しながら行わせる。			
○跳び箱を使った運動遊びを取り入れることで、より安全に跳び箱の活動につなげられるようにする。			
○本時のめあてをつかみ、学習の見通しがもてるようにする。			
めあて できるようになったことを確認し、発表会への準備をしよう。			
<b>2 自己の能力に合わせて、切り返し系の技の練習を行う。(活動1) (13分)</b>			
○切り返し系の技で自己の能力に適した場で安定してできる跳び箱の高さを選び練習するよう助言する。			
○課題を意識しながら取り組み、跳び箱の高さを少しずつ変えながら、取り組むようにする。			
○かかえ込み跳びの場を段階的に設け、自己の能力に応じて練習するように促す。			
○同じ場や高さで取り組んでいる児童同士で技のポイントを見合い、アドバイスするように促す。			
<b>3 自己の能力に合わせて、回転系の技の練習を行う。(活動2) (17分)</b>			
○モデルとなる絵を活用し、切り返し系と回転系の技で着手や踏み込んだ後の腰の上げ方の違いを確認し、準備運動で行っている踏み込み練習を行わせることで、着手の位置と腰の上げ方を確認する。			
○正しい体の使い方、できばえを高める技ポイントを振り返りながら活動できるように、モデルとなる絵を活用しながら、膝を伸ばし大きい台上前転になるように、同じ高さで取り組んでいる児童同士で技のポイントを見合い、アドバイスをするように促す。			
○首はね跳びの場を段階的に設け、練習するように促す。			
自己の能力に合った技が正確に、安定してできる。〈観察・学習カード(3)〉			
<b>4 学習したことを振り返る。(5分)</b>			
○今日の授業を通して、確認できた知識や跳ぶためのポイントを全体で確認する。			
○次時のめあてを知り、意欲的に活動できるようにする。			
☆着地で前を向いたら、安定して止まれるようになった。			
☆踏み込みを意識したら、腰が上がるようになった。			
☆4段で大きい台上前転ができるようになった。			



指導計画 体育科 第4学年 単元(題材)名 器械運動「跳び箱運動」(全9時間計画)

目標	ア 運動の楽しさや喜びに触れ、切り返し系や回転系の基本的な技の行い方を知るとともに、その技を身に付けることができる。(知識及び技能) イ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。(思考力・判断力・表現力等) ウ 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。(学びに向かう力、人間性等)			
評価規準	(1)運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や機械・器具の安全に気を付けたりする。 (2)自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝える。 (3)運動の楽しさや喜びに触れ、切り返し系や回転系の基本的な技の行い方を知るとともに、その技を身に付ける。			
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価項目 〈方法(観点)〉
つかむ	1	○学習の仕方を知り、単元全体の見通しをもち試技を通して、これまでにできるようになった技を確認する。 楽しく安全に学習をするための約束を知り、今までやってきたことを振り返ろう。	☆けがをしないように、約束を守って楽しく運動したい。 ☆跳ぶためには、しっかり踏み込むこと。 ☆手を跳び箱の前に着きたい。	◇場の安全に気を配り、ルールを守って活動している。 〈観察・学習カード(1)〉
	1	○開脚跳び、台上前転の正しい体の使い方を知り、自分に合った場で運動する。 正しい体の使い方を知り、友達と運動を見合いながら、自分に合った場で技ができるようになろう。	☆開脚跳びで6段が跳べるようになりたい。 ☆踏み込む前に止まってしまっ て跳べない。 ☆おしりが上がらなかった。 ☆着地が止まれない。	◇正しい運動の仕方を理解し、友達と協力して、自分の課題を見付けることができる。 〈観察・学習カード(1・2)〉
追究する	1	○友達と見合いながら開脚跳びを行い、自己の課題を見付ける。 友達と見合いながら運動して、自分の課題を見付けよう。	☆4段で跳べるようになったので、次は5段に挑戦する。 ☆手を奥に着いたら、もう少しで跳べそうになった。 ☆膝が曲がっているので伸ばしたい。	◇基本的な技が正確に、自分の能力に適した場を選んでできる。 〈観察・学習カード(1・2)〉
	1	○友達と教え合いながら自己の能力に合った場を選び、開脚跳びがより安定してできるようになる。 友達と教え合い、より安定した開脚跳びができるようになろう。	☆膝が伸びていて、きれいと言ってもらえた。 ☆手を奥に着くことを意識したら、跳ぶことができた。 ☆踏み切りを強くしたら、5段が跳べた。	◇自己の能力、課題に適した場で活動し、その技が安定してできる。 〈観察・学習カード(2・3)〉
	1	○友達と見合いながら台上前転を行い、自己の課題を見付ける。 友達と見合いながら運動して、自分の課題を見付けよう。	☆マットの上で回れるようになった。 ☆手は手前に着いて、おしりを高く上げること。 ☆踏み込みの時に止まってしまうので、回れない。	◇基本的な技が正確に、自分の能力に適した場を選んでできる。 〈観察・学習カード(2)〉
	1	○友達と教え合いながら自己の能力に合った場を選び、台上前転がより安定してできるようになる。 友達と教え合い、より安定した台上前転ができるようになろう。	☆5段にしたら、回れなくなってしまった。 ☆膝を伸ばすと大きくなるよとアドバイスをもらった。 ☆回るのが速くて着地が止まらなかったため、気を付けた。	◇自己の能力、課題に適した場で活動し、その技が安定してできる。 〈観察・学習カード(2・3)〉
	1	○自己の能力に合った場を選び、切り返し系や回転系の技の発展技に挑戦する。 開脚跳びや台上前転を元にした発展技に挑戦しよう。	☆手の突き放しを意識したら、かかえ込み跳びができた。 ☆首はね跳びは膝が曲がってしまうとうまくできない。	◇自己の能力、課題に適した場で活動し、その技の発展技に取り組んでいる。 〈観察・学習カード(2・3)〉
まとめ	1	○自己の能力に合った場を選び、切り返し系や回転系の技が安定してできるようになる。 できるようになったことを確認し、発表会への準備をしよう。	☆着地で前を向いたら、安定して止まれるようになった。 ☆踏み込みを意識したら、腰が上がるようになった。 ☆4段で台上前転ができるようになった。	◇自己の能力に合った技が正確に、安定してできる。 〈観察・学習カード(3)〉
	1	○今まで練習して、できるようになった技を発表する。 できるようになった技を発表しよう。	☆開脚跳びで5段が跳べてよかった。 ☆台上前転で膝を伸ばしてできるようになった。	◇自己の能力に合った技が正確に、安定してできる。 〈観察・学習カード(3)〉